

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園日吉	種別：認可保育所
代表者氏名：中澤 久美子	定員（利用人数）： 90名
所在地：〒223-0051 横浜市港北区箕輪町2-7-42プラウドシティ日吉レジデンスⅡソコラ	
TEL：045-534-5261	ホームページ：https://www.like-kd.co.jp/academy/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2020年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 6名
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士 2名
	保育士 16名 調理師 2名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室（1）ほふく室（1）保育室（4） 調理室（1）調乳室（1）幼児用トイレ（2）休憩室（1）医務室・事務室（1）屋外遊戯場

③ 理念・基本方針

こども理念	のびやかに育て だいちの芽
保育方針	みつめ愛 ひびき愛 信頼・安定・共感
めざす保育園像	陽だまりのような保育園 地域と共に育つ保育園 子どもと共に輝いていける保育園
保育目標	〈めざす子どもの姿〉
	・自然を愛し、心身ともに健やかな子ども
	・自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども
	・「仲間」と関わり、人を思いやれるこども
	・自己を表現できる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・総合開発により建設された大型居住区の一画にある、複合施設の中になる保育園である。子育て中の世帯が多く保育園の需要が高い。開所当初より入所者は多く、現在も希望者が多数いる。近隣には小学校と多くの保育園があり少しずつ小学校、保育園間のつながりも出来てきた。 ・保育園は前面ガラス張りである、空調や冷暖房は管理されている。保育室は木材を使用した床、家具で統一され自然の温かさがある。保育室は可動式壁により最大4部屋繋がることができ、用途に応じて使用できる。屋外に専用遊技場を持ち複数のクラスでの活動も可能であり、プランタでクラスごとに花や野菜の栽培を楽しんでいる。近隣には公園が多く、年齢や目的に応じて楽しむことができる。特に自然環境が豊かで虫取りができたり、様々の植物を観察できる。 ・コロナ禍での開所は試行錯誤の中、安全安心に重点を置き運営されてきた。今年度

は3年目の実績を踏まえ、保護者参加の行事も積極的に取り組み、保護者と共に子育てを取り組んでいけるよう情報発信を心掛けている。また経験の浅い職員が多い中、外部研修への参加と園内研修や学びの充実を図っていきたいと取り組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 6月 1日（契約日） ～ 2023年 3月 17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

身近な自然に親しみ、感覚活動を豊かにしている

保育園の立地を活かした保育が展開されている。総合開発により建設された大型居住区の一画にあるためエレベーターで保育園から降りてくると、危険の無い広い自然空間や公園がある。歩き始めた子でもエレベーターを利用して地階にでると無難なく探索活動が楽しめる環境が整備されている。可能な限り散歩に出ることで、豊かな木々や草花、虫などを発見し触れ合い、五感を通して自然を感じることが出来ている。歩いていける公園や山などもたくさんあり、幼児は目的に応じて場所を選んで活動し、自然の不思議さや事象の変化に気づき、生活に取り入れていこうとする力を養っている。同じ敷地内に小学校があり日々の生活の中で小学校を身近に感じることが出来、運動会に小学校の体育館を利用したことで園庭交流なども行われている。

クラスの垣根を超えた活動が出来ている

幼児が栽培した野菜などに水やりを行ったり園庭で活動するためには、乳児クラスの前を通り園庭に出る。乳児が散歩に出かけるためには幼児クラスの前を通って出かける。お互いが様子を見ながら言葉を掛け合うことが毎日のように行われている。小さい子は大きい子をお手本とし、大きい子は小さい子の面倒をみるなどの交流が自然と行われている。幼児クラスは、可動式の壁を開放して広い空間を作り活動する機会も多く作られている。合同保育になって玩具の持ち込みを行う事で、それぞれが見たクラスの様子を模倣したり、再現したりして園全体がクラスの垣根を超えて活動出来る環境となっている。

研修体制が整えられ、学び合いの機会を意識的に作っている

開所して3年目という事もあり経験の浅い職員も少なからずいる。業務を遂行するための新しい知識やスキルを積極的に身に付けようとする、学びに対する姿勢が見られる。園全体の研修計画を立て外部研修を受けて、新しい知識や気付きを得たり、内部研修で得た内容の共有を図ったりしながら実践力に繋げている。年間指導計画や月案、保育日誌などの振り返りや評価を行いながら、個人の評価が乳・幼児の評価となり園全体での保育力の向上に繋げ、次回の計画に反映されていくような取り組みを行っている。

今後期待される点

地域との連携

近隣での保育園の存在が周知されにくい複合施設にあり、園の様子を見学したい場合や気軽に話を聞いたり相談したりすることは難しい。日頃の散歩などを利用し近隣の住民と仲良くなったり、園での講座・見学会などの機会を活用し園の認知度が高まることにより災害時の協力などが得やすくなることを期待したい。

ボランティアの受け入れに向けた工夫と検討に期待したい

実習生やボランティアの受け入れ体制としては、保育ガイドにてマニュアルを整備し、職員間での共有化に努めており体制を整えている。しかしながら、実績はないため受け入れに向けた工夫や検討が期待される。コロナ禍の状況などにもよるが、近隣の中高校生へ職業体験ボランティアの声かけなどを予定している。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当園はコロナ禍での開所、運営と課題を抱える中で、三年目新たに取り組みを開始する時に第三者評価を受審でき、振り返り課題を掲げ目標設定をすることができました。

後半は箕輪小学校との交流が持て今後はより地域との関りや連携が広がっていけると実感しています。

また今年1月、2月に看護学校実習生の受け入れもでき子どもたちにとって、職員にとっても良い機会となりました。

評価をいただいたところはより高め、問題提起していただいたところは真摯に向き合い、ご利用者される方々にとってより良い保育園を目指していきます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり